

ササハタハツ  
Area Vision Book

Area Vision Review

2025

お問い合わせ

ササハタハツまちラボ事務局

tel : 03-3463-2947

fax : 03-5458-4918

mail : sec-machi1suishin@shibuya.tokyo

ササハタハツまちラボの  
公式WEBサイトはこちら



<https://www.sasahatahatsu.jp>

《発行》ササハタハツまちラボ

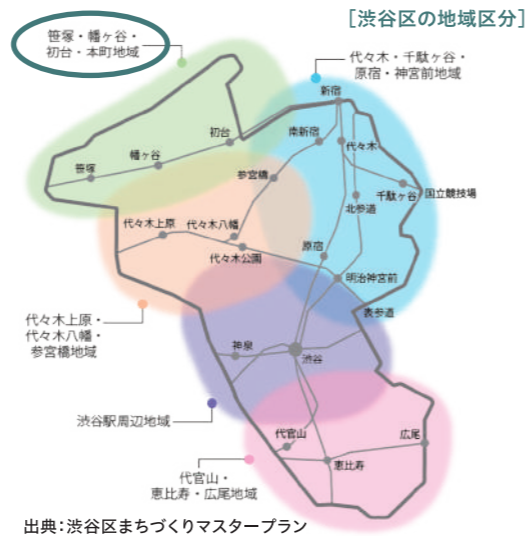
ササハタハツ  
Area Vision Book

Area Vision Review

2025

## エリアビジョンとは？

官民連携組織「ササハタハツまちラボ」では、2022年3月に「ササハタハツエリアビジョン」を策定し、エリアビジョン実現に向けたまちづくりを推進してきました。エリアビジョンとは、まちの暮らしの質や魅力の更なる向上を目的に、2032年までを対象として、まちづくりの将来像と取り組む方向を示し、様々な方々の参画を促す指針となるものです。



### ▶対象地域

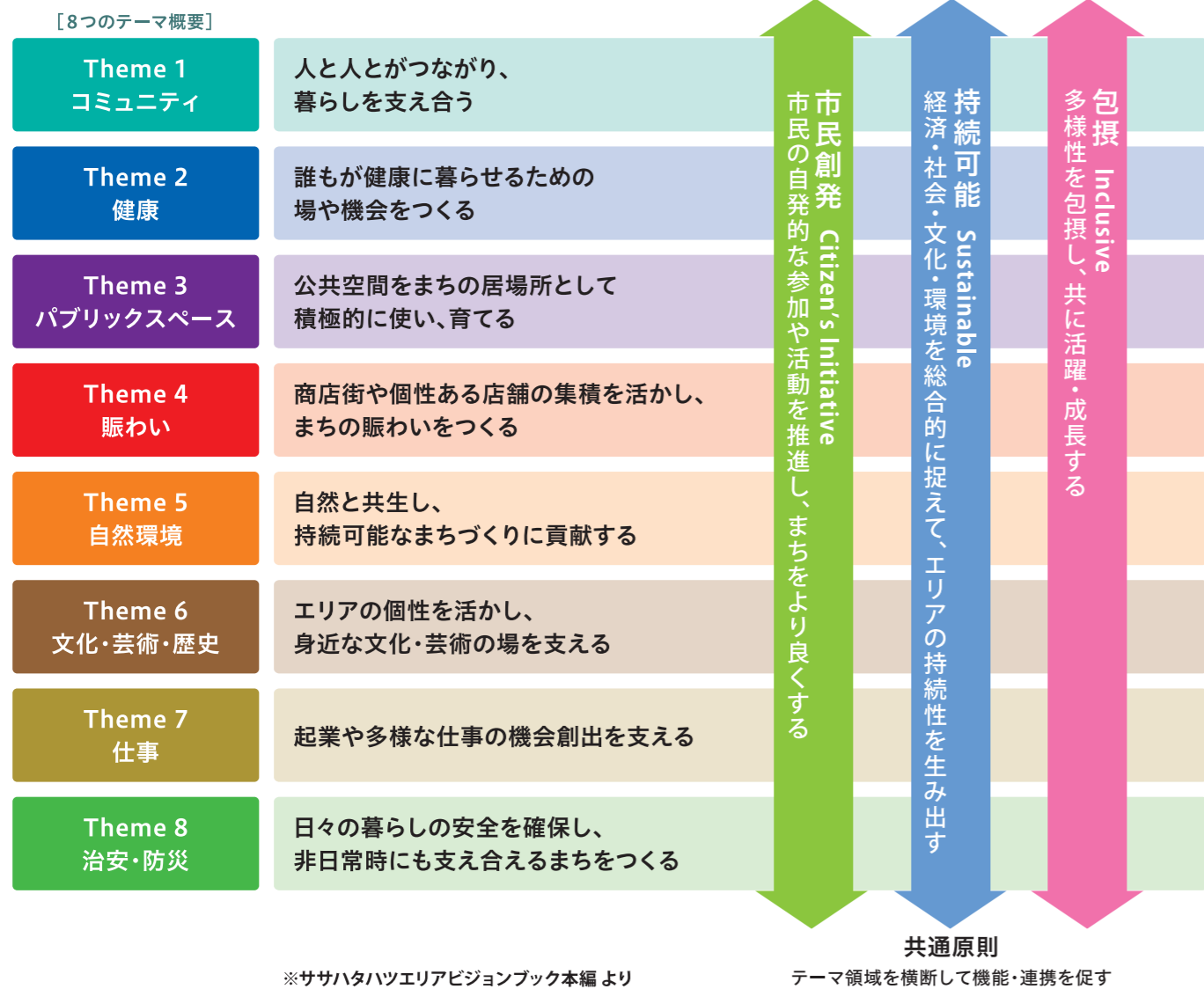
本ビジョンに示すササハタハツエリアは、渋谷区まちづくりマスタープラン（令和元年12月・渋谷区）における地域区分「笹塚・幡ヶ谷・初台・本町地域」を対象とします。概ね笹塚駅・幡ヶ谷駅・初台駅を中心に徒歩圏内500m～1kmの範囲です。

### ▶将来像

市民創発による持続可能で多様性を包摂した、共に活躍・成長できるまち ※ササハタハツエリアビジョンブック本編より

### ▶取り組むテーマと共通原則

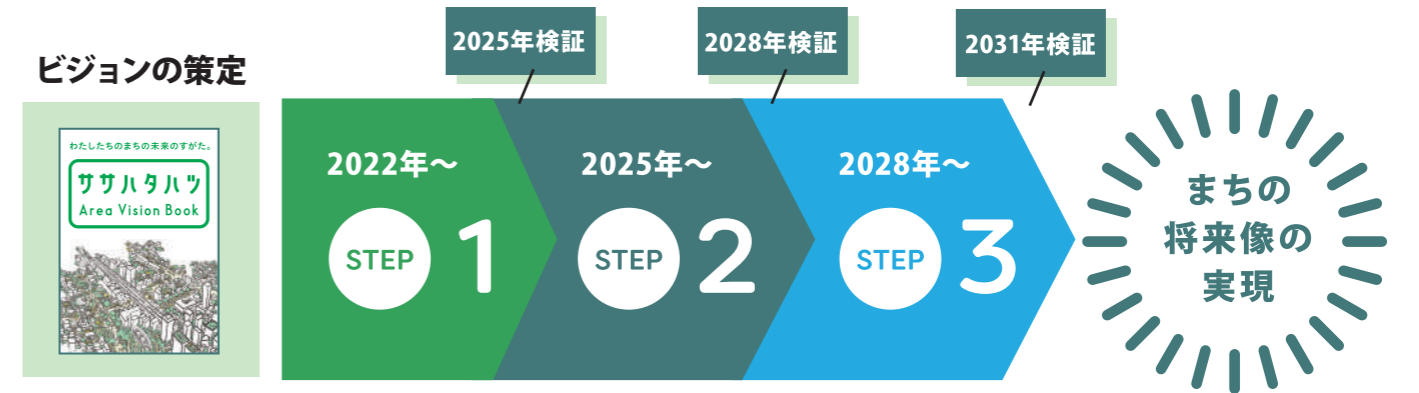
ササハタハツエリアの特徴をふまえて特に注力する8つのテーマを設定しています。また複数のテーマを横断する考え方として、3つの共通原則を掲げています。



## エリアビジョンレビューの目的

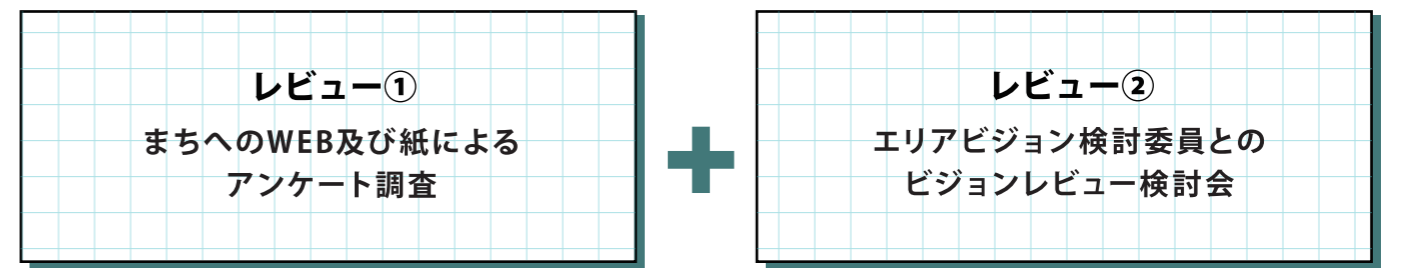
エリアビジョンの中では、2032年までの10年間のロードマップ（行程表）を定めています（ビジョンブックP.23参照）。この中で、ビジョン策定から3か年ごとに「レビュー（検証）」を行っていくプランとしています。これまでの2022年～2024年の3年間におけるビジョンの達成度合いを検証することで、目標年次（2032年）までのビジョン実現につなげていきます。

「エリアビジョンレビュー」は、3年間の取り組みやまちの変化をふまえてロードマップを更新し、ビジョンを補完するものです。



### ▶レビューの手法

今回のレビューでは、まちへのアンケート調査とビジョンレビュー検討会の主に2つの手法を実施し、その結果を参考として、これまでの取り組みを評価するとともに2032年までのロードマップを更新することとします。



- まちの満足度やエリアビジョンで定めた項目に関するアンケート調査を実施しました。
- エリアビジョンの策定に携わってもらったエリアビジョン検討委員に再度声掛けをし、まちの現状や今後についてのワークショップ形式での意見交換を実施しました。

検証内容を「エリアビジョンレビュー」に反映し、ビジョンの実現につなげます。

## まちラボが3年間で取り組んだ活動

ササハタハツエリアでは、2022～2024年の3年間で様々な活動が実施されました。ここではまちラボが主体となって実施した活動を年表にまとめました。

2022年3月のビジョン策定前から実施していた「ササハピ事業」や「仮設FARM運営支援」、「388 FARM β」を継続し、ビジョンの実現に寄与する活動の支援や発掘、パブリックスペースの活用に取り組みました。

2023年からは「388 Area Makers」、「まちラボ仮拠点」を開始しました。

2024年には「ササハピ事業」にパートナーシップ制度やゼミの新設、388 FARM βを「公共空間 × MARCHE事業」に移行、賛助会員企業、協力団体制度の新設など「企業連携事業」の拡大を行っています。

### ▶まちラボ主体事業の活動年表

	2022年	2023年	2024年	
コミュニティ活動 支援・運営事業	ササハピ (2020年～) ● 第3期認定	● 第4期認定	● 第5期認定 ● ササハピパートナーシップ制度 ● ササハピゼミ実施	
		388 Area Makers ● vol.1	● vol.2	● vol.3
			まちラボ仮拠点 ● 一般開放開始	● vol.4
	仮設FARM運営支援 (2021年～) ● 西原仮設FARM新設		● 西原仮設FARM移設	
官民連携事業	388 FARM β (2021年～) ● 開催	● 開催	● 開催	
		企業連携事業 ● 388 FARM β への企業出店の促進	● 賛助会員制度の整理	● 賛助会員企業 (+2社) 協力団体制度の新設 ●
	エリアビジョン (2022年3月策定)			● ビジョンの検証
情報発信事業	オウンドメディア運営 (2020年～) ● WEB、Facebook		● Instagramの新設及び運営	
	外部メディア連携 (2020年～)			

### ▶まちラボの取り組み紹介



ササハピゼミ

まちづくり活動に関心を持っている人や団体を対象に、有識者を交えた学びの場(ゼミ)を開設。ゼミを通じて、地域による新たな活動の創出を目指す。



388 Area Makers

地域で活動する多様な人々によるコミュニティ。活動の情報共有・連携・協議の場として運営を行っている。



まちラボ仮拠点

将来開設予定のまちラボ本拠点に向けた実験的な取り組みとして、笹塚十号通り商店街に仮拠点を開設。「地域のコミュニティハブ」機能を担う場として一般に開放を行っている。



仮設FARM運営支援

農園の維持管理ルールを検証を目的に、渋谷区が初台・西原に設置した仮設FARM。将来のFARM運営における課題や知見の把握を行うとともに、地域コミュニティの醸成を支援している。



公共空間×MARCHE

地域住民をはじめ様々な人の活動の場づくり・つながりづくりを目的に、公共空間を活用したMARCHEイベントを実施。



情報発信

まちラボウェブサイト、SNS (Facebook、Instagram) を運営。まちラボの活動をエリア内外に広く発信している。

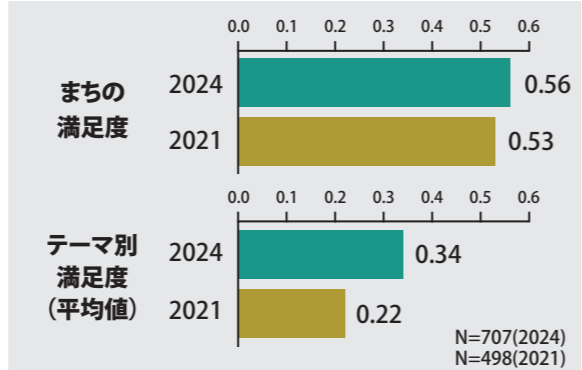
# レビュー① まちへのWEB及び紙でのアンケート 概要

目的：まちの現状の満足度やテーマごとの傾向を把握し、ビジョンレビューの基礎資料とする  
 期間：約3週間（2024年11月8日(金)～12月2日(月)）  
 周知：渋谷区及びまちラボウェブサイト・SNSでの発信、地域SNSやまちのコインアプリでの案内、町会掲示板・渋谷区施設への掲示等

方法：Google フォーム及び紙面での回答  
 設問数：22問  
 総回答数：707件  
 ※アンケート結果は、エリアビジョンレビュー資料編に掲載

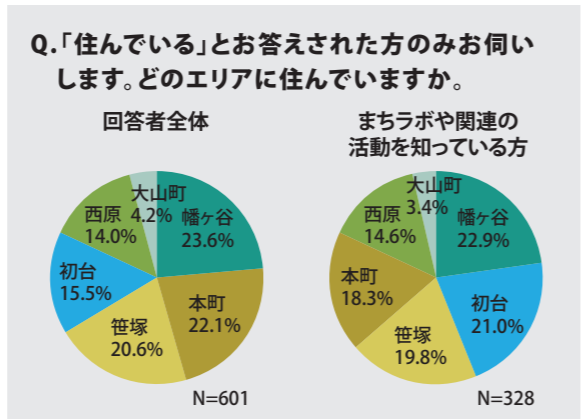
## レビュー01 まちの総合満足度、テーマ別満足度が上昇

2021年のアンケートの同じ設問と比較して、  
 ・まちの総合満足度：0.53→0.56ポイント  
 ※回答全体のうち満足度（5段階評価）4、5を回答した割合  
 ・テーマ別満足度：0.22→0.34ポイント  
 ※同じく満足度が4、5を回答した割合。全テーマの平均値に上昇しました。テーマ別満足度（平均値）が総合満足度より低い結果となった要因としては、「賑わい」以外のテーマが満足度0.4以下にとどまったことが考えられます。



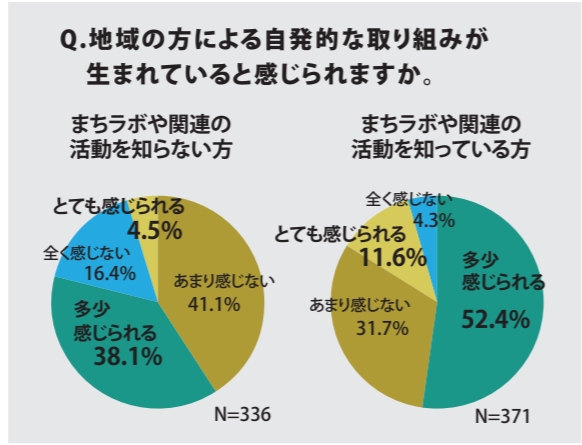
## レビュー02 取り組みを多く行った地域では、活動の認知度が向上

まちラボや関連の活動を知っている方の居住地域の割合は、回答者全体のそれと比べて、初台地域が5.5ポイント、西原地域が0.6ポイント高い結果となりました。この結果は、3年間の取り組みを地域別に分けると、初台地域が最も多く、西原地域がその次に多かったことが影響していると考えられます。



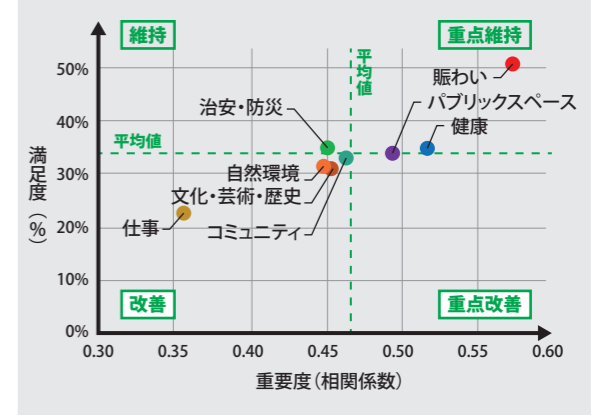
## レビュー03 まちラボや関連の活動に関わることで、3原則の意識が高まる

ビジョンの3つの共通原則を実感する意識は、まちラボや関連の活動を知らない方に比べて、知っている方が約17～21pt高くなりました。  
 ※回答の「とても感じられる」、「多少感じられる」の合計値を比較。まちラボや関連の活動を知らない方の合計値42.6%に対し、知っている方の合計値は64.0%となり21.4ポイント高かった。  
 ※右図のグラフは市民創発の共通原則に関するもの。持続可能と包摂の共通原則に関するグラフは資料編に掲載。



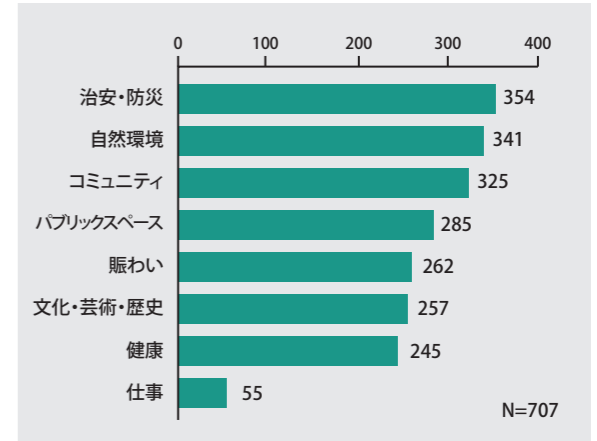
## レビュー04 まちとして、テーマ「コミュニティ」、「自然環境」への取り組みに期待

テーマ別満足度分析の結果、「コミュニティ」および「自然環境」のテーマは、2021年のアンケートでは満足度の平均値を上回り“維持”領域に位置していたものの、今回は平均値を下回り“改善”領域に位置する結果となりました。このことから、これらの2つのテーマには改善の余地があり、今後の向上が引き続き求められていると考えられます。  
 ※2021年のアンケートとの比較は資料編に掲載。



## レビュー05 まちラボに期待する上位4つのテーマ

まちラボに期待するテーマは、「治安・防災」、「自然環境」、「コミュニティ」、「パブリックスペース」が上位に挙がりました。一方で、行政とまちラボのそれぞれの役割が、回答者の中で混同している可能性も考えられます。



## レビュー06 「活動のサポート・エリアマネジメント」に期待すること

「活動のサポート・エリアマネジメント」に期待することは、“地域の活性化・住民参加促進”が最も多く、続いて環境整備と美化、防犯・治安の後に、若者・子どもへの支援が続きました。

<内容別意見数>

地域の活性化・住民参加促進	18件
環境整備と美化	14件
防犯・治安改善	9件
若者・子どもへの支援	8件
高齢者・障がい者支援	6件
芸術・文化活動の支援	5件

## レビュー② エリアビジョンレビュー検討会の実施

目的：ビジョンのレビューにあたり、2024年のアンケート結果もふまえながら、ワークショップ形式でこれまでの3年間や今後のまちづくりについて意見交換を行い、ロードマップの更新に反映すべき事柄を考える。

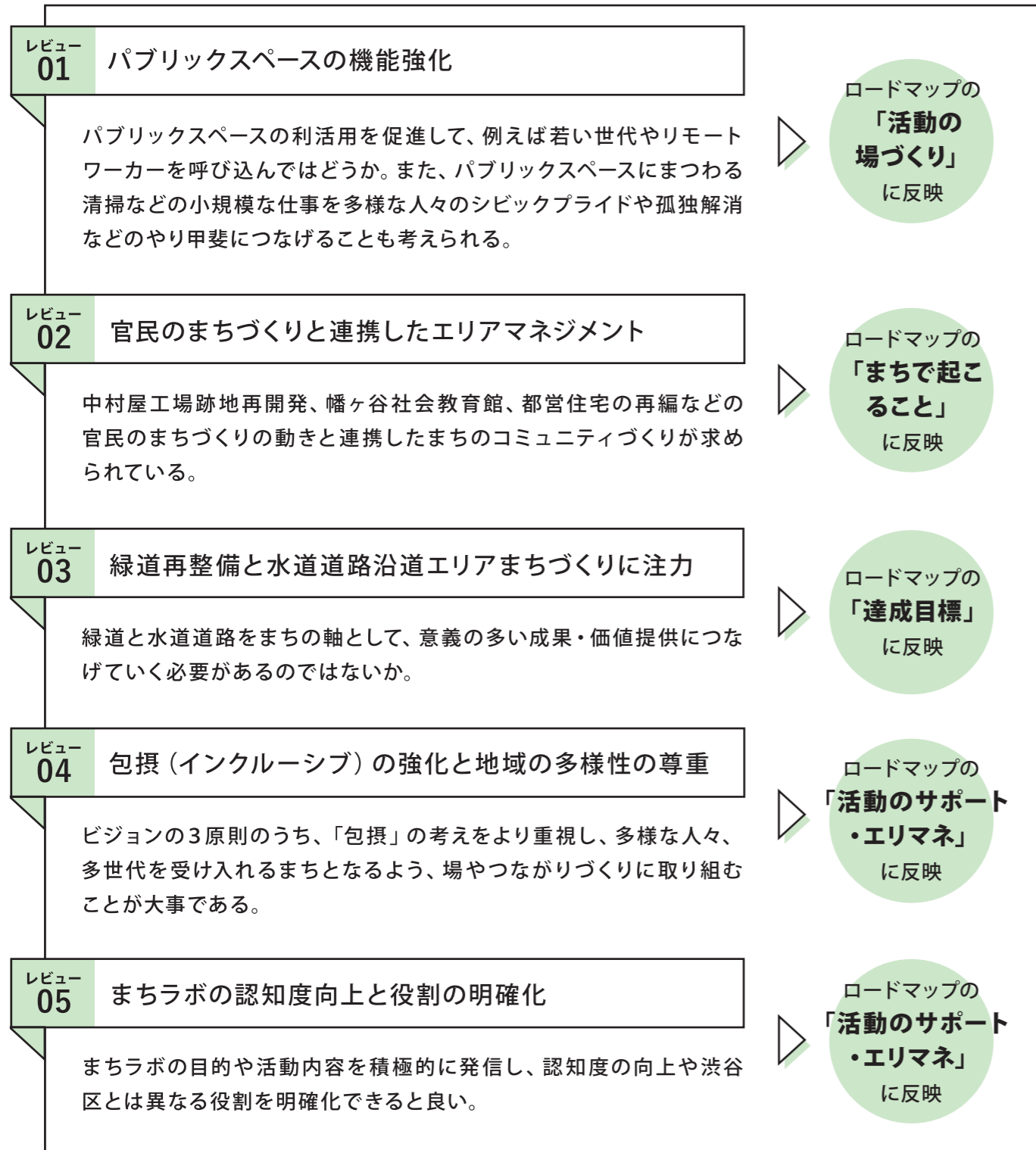
検討委員：ビジョン策定時に公募で選ばれた委員8名と学識経験者(泉山壘威：日本大学理工学部建築学科准教授)

開催：第1回(2024年10月2日(水) 18:00~19:00 オンライン)

第2回(2025年1月24日(金) 18:30~20:30 笹塚駅前区民施設)

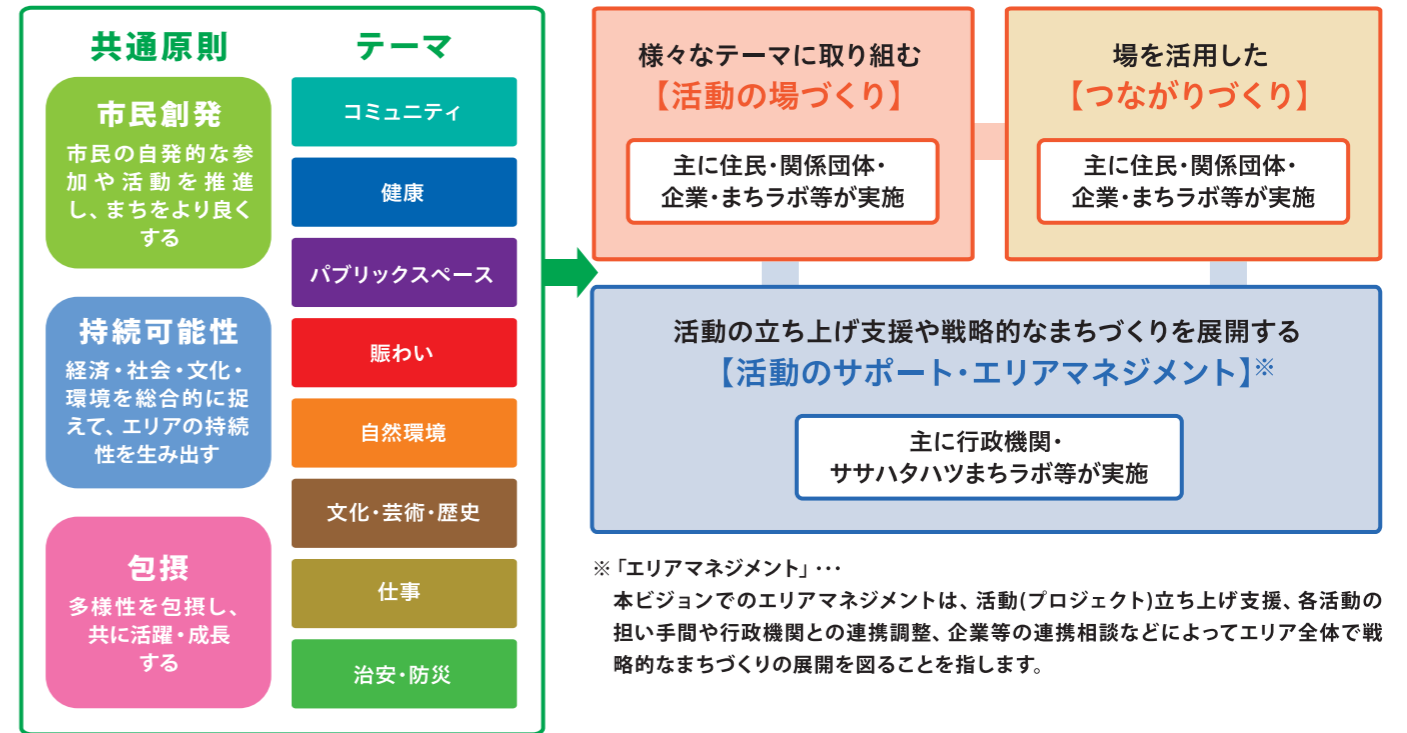
※エリアビジョンレビュー検討会で出た意見一覧は資料編に掲載

### ▶主なレビューのポイント



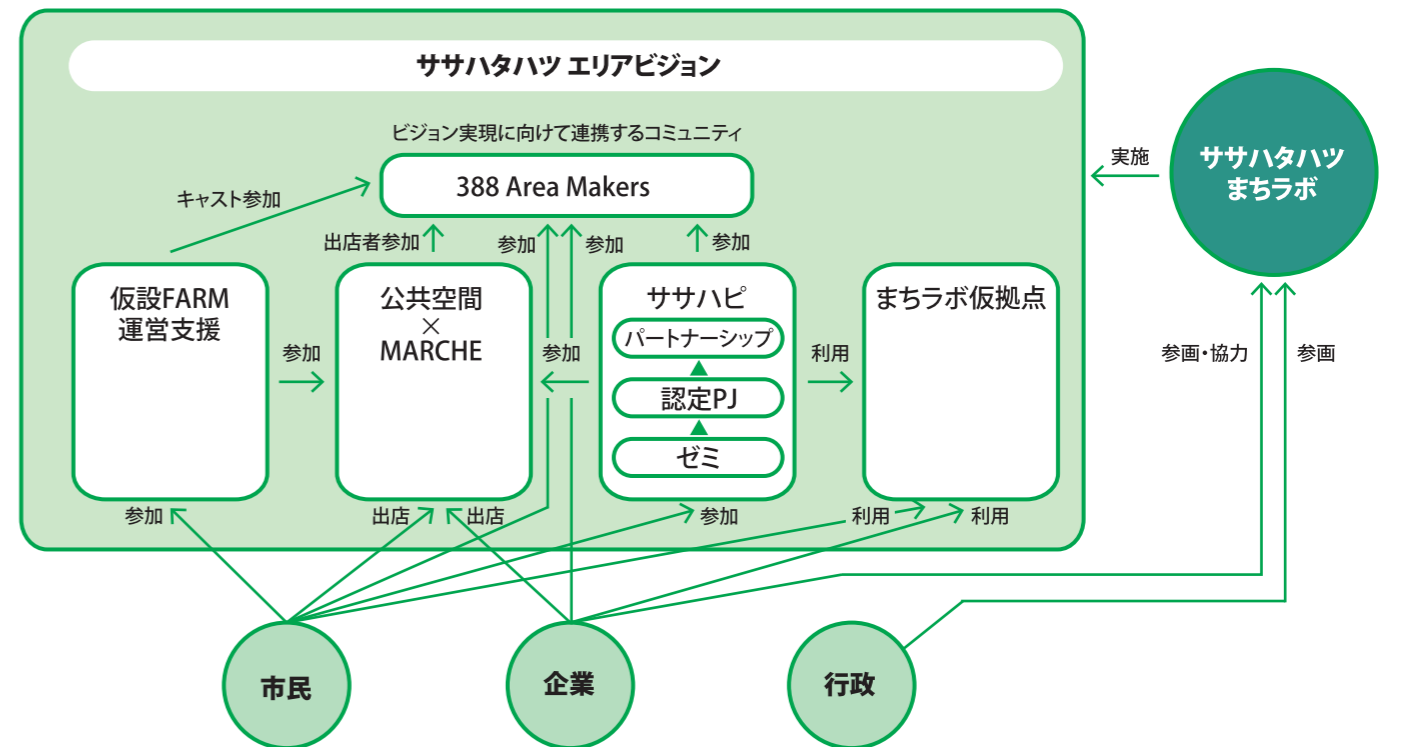
## ▶ビジョンの実現に向けた3つの柱

様々な人が活動する「場」をつくること、それらの活動に出会い新たな展開が生まれる「つながり」をつくること、活動のサポート・戦略的なまちづくりの3つを柱として取り組みます。



## ▶ビジョンを推進する仕組み

まちラボ主体の取り組み「仮設FARM運営支援」、「公共空間×MARCHE」、「ササハピ」などに関わる人々や、まちラボに関わらず地域で活動する多様な人々によるコミュニティ「388 Area Makers」にて、様々な取り組み同士の課題や可能性を共有し、それぞれの活動の推進力を高めます。



# ビジョン実現までのロードマップ(行程表) 2025更新版

アンケート調査結果やエリアビジョンレビュー検討会の内容をもとに、ロードマップを更新しました。これまでのロードマップへの追記と「達成目標」「まちラボの事業展開」「まちで起こること」の新たな項目を追加しました。

## ▶2025年以降のまちラボの事業展開

### (( 拡大事業 ))

**公共空間×MARCHE**  
2021年から玉川上水旧水路緑道で行っているMARCHEイベントについて、「地域住民をはじめ様々な人の活動の場づくり・つながりづくり」を目的に、水道道路沿道エリアへ展開していきます。

**緑道再整備後のコミュニティ醸成**  
仮設FARM運営支援による検証をもとに、地域の方々が土や自然に触れ、作物の成長など様々な共通体験を通じた交流や、食を通じた体験により多世代がつながる場づくりに貢献できることを目指します。

### (( 新規事業 ))

**まちラボ本拠点の運営**  
現在のまちラボ仮拠点での検証結果を参考に、将来的にはまちラボ本拠点を新たに開設し、地域まちづくり活動の活性化に資する運営を行います。

## ▶2028年レビューに向けて

2022年3月に策定したエリアビジョンのロードマップでは、「活動の場づくり」「つながりづくり」「活動のサポート・エリアマネジメント」の3本の柱を軸に、まち全体のロードマップを作成しました。

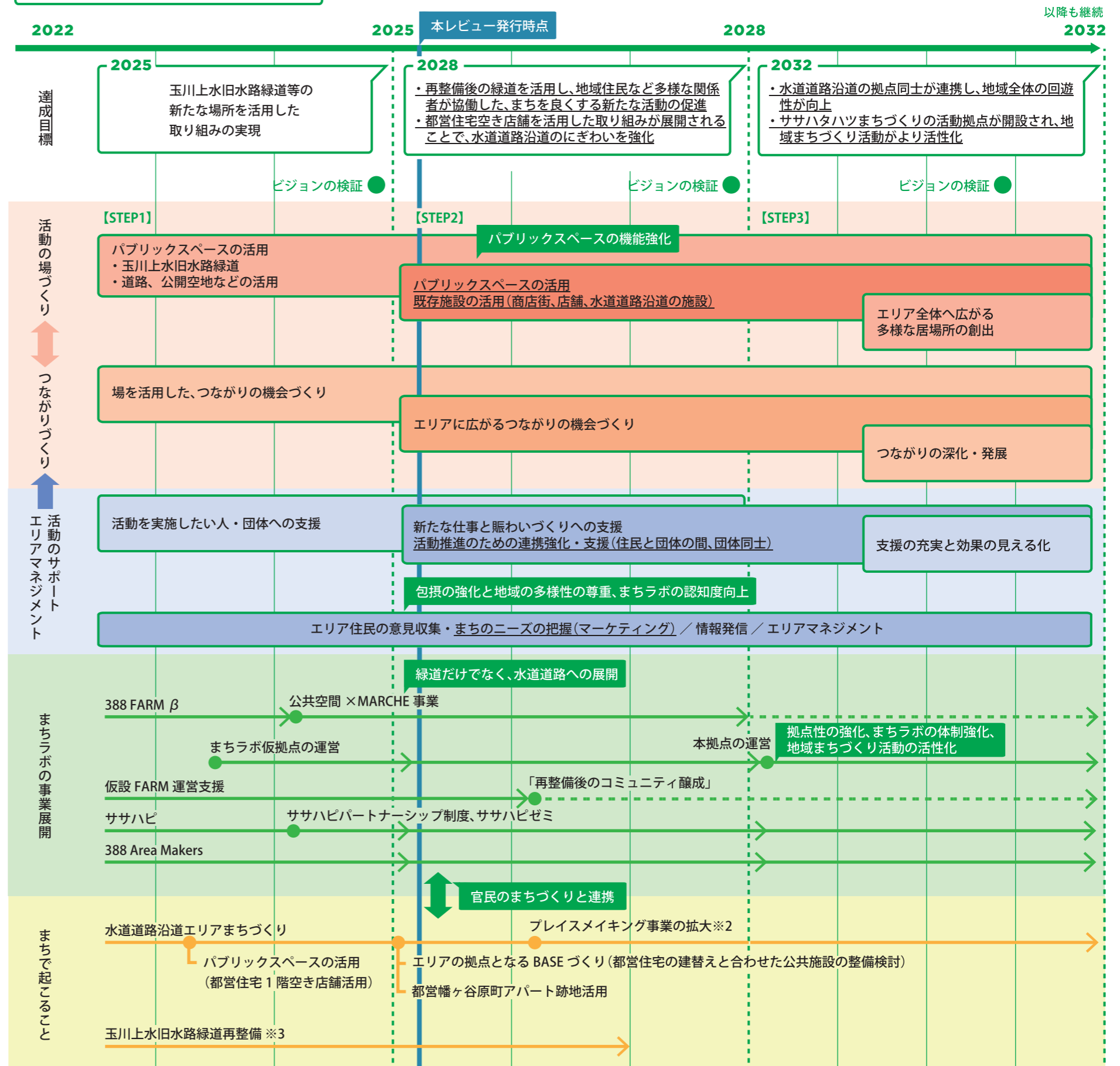
エリアビジョンの策定以降、コロナ禍を経て新たな生活スタイルが生まれ、より「活動の場づくり・つながりづくり」を意識した取組にチャレンジしてきました。

今回、3本の柱に加えアンケート調査やエリアビジョンレビュー検討会での意見を踏まえて、「まちの達成目標」「まちで起こること」「まちラボの事業展開」を追記し、より具体的な内容に更新を行いました。

ササハタハツエリアの未来に想いを馳せながら、やりたいことやチャレンジしたいことを考えたロードマップになっています。

3年後の2028年には、今回作成したロードマップの達成度合いを再度アンケート調査等を通じて検証し、さらなるササハタハツエリアでの暮らしの質の向上を目指していきます。

## 更新されたロードマップ(行程表)



※1 下線付きのテキストが、今回更新した箇所。「まちラボの事業展開」と「まちで起こること」は全て更新。  
 ※2 「プレイスメイキング」は、パブリックスペースを居心地の良い空間にするプログラムを指す。2020年から渋谷区が本町エリアで実施中。  
 ※3 渋谷区が令和8年度末までの全区間での現場着手を旨とする。